農政連情報

みどりの風

2018（平成30）年 April vol.339

今月の表紙

走る子ら（撮影：村上　智春様）

第６回「がんばろう熊本　未来に伝えたい農業・農村の風景」フォトコンテストで、入選された方の作品の中の１点です。

■熊本県農政議員連盟（県議会議員）との懇談会を開催
■ TPP11、日 EU・EPA について熊本県が影響額の試算を公表
■第 64 回 JA 全国青年大会開催及び県選出国会議員への要請
■ＪＡ熊本経済連生産資材コスト低減に向けた取り組み
■参議院議員藤木しんや氏コラム
■参議院議員山田としお氏コラム
■ガンバッテます
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

農水省は平成28年の農作業死亡事故の調査結果を公表した。年間の死亡件数は全国で３１２件と前年より26件減少し、熊本県も昨年より8件少ない17件となったものの、残念ながら全国で2番目に多い発生件数となっている。

農水省の「防ごう！農作業事故 地域活動マニュアル」では、農作業事故の基本的な仕組みを「『物的要因』が農作業現場に潜在し、それに『人的要因』が重なり合い発生する」とされている。

つまりは、不安全な農機具使用や農作業を行う環境の中で、不安全な行動が加わるから事故が発生するということである。

個人的にも昔、農作業中に頭部を5針縫う怪我をしたことがある。自身の反省では、単純作業による心身的疲労が、気の緩みにつながった結果と感じている。まさしく人的要因である。

この経験から現在でも行っているのは、心の中でではあるが「指差呼称」の安全確認と、「事故はせぬ」と声を出して呟くという自身への意識づけである。

そのおかげか、以降は農作業や自動車での事故をおこしたことはない。

安全確認と安全運転・作業を自身の潜在意識に刷り込ませること、また、家族や友人への「気をつけて」などの声掛けは、ただの習慣や社交辞令でも効果は必ずあると思っている。

大切な自身や家族・友人を思えば、ちょっとした心がけや回りへの気遣いはあって然るべきだ。その輪（和）が広がれば、事故の未然防止の一助になると信じている。

発　行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町２－３　電話 096-328-1284　編集責任者　中村　隆宏
発行日／平成 30 年 3 月 15 日・毎月 1 回 15 日発行
定　価／1部 50 円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）

熊本県農政議員連盟（県議会議員）との懇談会を開催

熊本県農政連とJAグループ熊本は2月27日、熊本市内のホテルにおいて、熊本県農政議員連盟（県議会議員）との懇談会を開催しました。県農政議員連盟は、自民党県連に所属している35名の県議会議員で組織されています。

▲挨拶する小崎憲一農政連委員長

主催者を代表し、挨拶に立った県農政連の小崎憲一委員長（JA熊本中央会会長）は「農政をめぐる情勢について、日EU・EPA及びTPP11が最終合意し、今後、署名や国内手続きが進められていくこととなっている。一方、農協改革について「農協改革集中推進期間」の期限が来年5月末に迫るなか、我々JAグループとしては、JAの自己改革である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け、組織一丸となって取り組んでいる。農家が将来に亘って希望と誇り・意欲を持って営農に取り組むことが出来るよう、指導・支援を願いたい」と述べました。

懇談会では、国際貿易協定の合意を受けての万全な国内対策の強化や、中山間地対策及び中小規模・零細農家への支援強化、農業労働力確保対策、熊本地震からの復旧・復興など農業政策に関する要請を行いました。

また、要請事項について、前川收農政議員連盟会長は「現場の多くの声が聞けた。私たちも、国政・県政へ反映させるよう、努力を続けていく」と回答しました。その後の意見交換会でも、参加者の活発な意見が交わされました。

▲挨拶する前川收農政議員連盟会長

TPP11、日EU・EPAについて 熊本県が影響額の試算を公表

熊本県は2月26日、米国抜き環太平洋連携協定（TPP11）と、日本と欧州連合（EU）の経済連携協定（EPA）について、独自の農林水産物への影響試算額を公表しました。

国が昨年12月に示した算出方法を参考にして算出されています。国は価格のみ下落するとしていましたが「生産量への影響」や「品目追加」を上乗せして、試算が行われています。

県の試算では、TPP11が55億円から94億円（TPP12は82億円から132億円）、日EU・EPAが28億円から57億円と計算しました。県は、二つの協定によるしわ寄せが「TPP12と同程度の影響となる可能性がある」と指摘しています。

TPP11で国が試算対象としていないトマトやスイカなどの野菜（5.2億円）、県産米の約3割を占める業務用米（1.1億円）への影響額も独自に算出して加えています。

品目別で最も影響を受けるのが、大幅に関税が下がる畜産物。TPP11、日EU・EPA合計で、牛肉への影響が最も大きく、TPP12で見積もった県独自試算額（最大56.4億円）を上回る63.9億円となります。豚肉もTPP12の独自試算（最大22.8億円）を超え、39.3億円となります。乳製品はオーストラリアやニュージーランドからバターと脱脂粉乳が、欧州からはソフト系チーズ（カマンベール、モッツァレラなど）の輸入が増え、影響は11.2億円と予想されます。

TPP11と日EU・EPAでは、多くの農林水産物で関税が撤廃・縮小されます。また、コメや牛乳・乳製品などは引き続き輸入は制限されますが、新たに輸入枠が設けられるなど、国内の農畜産物の価格などへの影響が指摘されています。

TPP、日EU・EPAに伴う熊本県への影響試算額　（単位：億円）

品目名	TPP		日EU・EPA
	TPP11（米国除く）	TPP12（米国含む）	
米	1.1	13.6	−
小麦	0.9～1.9	2.0	−
大麦	0.2	0.2	−
牛肉	24.8～48.8	28.7～56.4	7.7～15.1
豚肉	10.4～20.0	11.8～22.8	9.8～19.3
牛乳乳製品	3.4～5.8	3.3～5.5	2.4～5.4
かんきつ	2.4～4.9	6.8～13.3	0.2～0.5
鶏肉	−	0.9～1.7	−
鶏卵	−	0.8～1.6	−
野菜	5.2	6.8	−
林産物	6.1	5.3	8.2～16.4
水産物	最大0.2	1.5～2.8	−
合計	55～94	82～132	28～57

第64回ＪＡ全国青年大会開催及び県選出国会議員への要請

２月26・27日、メルパルク東京において、第64回ＪＡ全国青年大会が開催されました。この大会は、全国各地からＪＡ青年部が集い地域間交流を図るとともに、自立農業経営の確立、明るく豊かな地域社会づくりを目指すために相互研鑽を行い、明日からの営農活動の原動力、青年部組織のさらなる発展を期するために開催されています。

今大会のスローガンは「今こそ協同の底力！～さぁ俺たちの時代を始めよう」であり、当日は、青年組織の情熱と協同の理念をもつ盟友、約１４００名が出席しました。本県からは１００名の盟友が参加し、ＪＡ青年の主張発表では、九州・沖縄ブロック代表として、ＪＡ鹿本青年部の木山英樹氏が発表し、優秀賞を受賞しました。

また、26日の大会終了後、熊本県青壮年部は熊本県選出の自民党国会議員に対し、ポリシーブックを通じた青壮年部活動に対する支援の他、ＴＰＰ等関連政策の強化等の要請を行いました。挨拶に立った前本勝委員長は「将来に亘って持続可能な農業が営まれるよう、我々青壮年部がＪＡグループと一体となって取り組んでいる農業者の所得増大、農業生産の拡大に対する後押し、生産者が将来展望を描けるよう万全な予算措置と施策を講じていただきたい。」と訴えました。要請に対し、野田毅衆議院議員は「国際貿易交渉、中山間地域の問題など様々な課題を抱える中で、要請内容をしっかりと受け止め、皆様と共に熊本の農業を守っていけるよう頑張りたい」と述べました。

▲優秀賞を受賞したＪＡ鹿本青年部木山英樹氏

▲野田毅衆議院議員へ要請書を手渡す前本勝委員長

ＪＡ熊本経済連からのお知らせ
生産資材コスト低減に向けた取り組み

肥料農薬課
ＰＢ肥料と農薬大型規格品目の普及拡大強化について

肥料については、生産資材コスト低減に向け、低価格商品と省力化商品としてＰＢ商品（くまもと独自ブランド）の開発・推進に取り組んでいます。ネーミング・包装デザイン等を従来品と差別化し、米麦用銘柄を中心に現在13銘柄を取り扱っております。

また農薬については大型規格品目の充実により生産コスト低減を支援するとともに、水稲除草剤として、製造メーカーから生産者へ直接配送することで物流コストを抑えた低価格商品（約30％の低減）「担い手直送規格」50kg（５ha分）の普及拡大強化に努めております。

▼特別大型規格水稲除草剤（担い手直送規格）

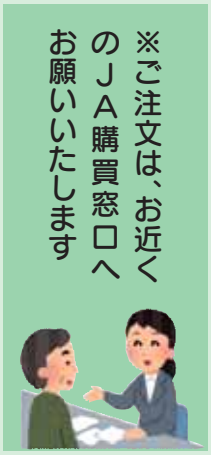
▲大型規格農薬

▲汎用性ＰＢ肥料

生産資材課
経済連オリジナル（ＰＢ）マルチの取り組みについて

本会は自己改革において資材のコスト低減に取り組んでおり、平成28年４月から品質・価格面で生産者ニーズに対応したオリジナル（ＰＢ）マルチ４規格を開発し普及を進めてきました。

さらにＪＡ・生産者より規格の追加要望があったため、平成30年２月より13規格に拡充し、普及拡大を図っているところです。価格については従来品と比較して約30％前後の低減を実現しております。



全国農政連推薦・県農政連公認

参議院議員藤木しんやの 永田町でも 百姓宣言

「現場の実情を訴え続ける」

【大寒波が列島に】

深刻な寒波の影響で、日本海側を中心に大変な被害が発生しています。九州でも積雪が見られます。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、足元の生活が一刻も早く復旧することを願っています。

特に、ご病気を患っておられる方が通院もままならないといった状況が続いていることに深刻さを感じます。農業面に関しても、かなり広い範囲で農業施設の倒壊や農産物に被害が発生しています。党の災害対策特別委員会や関係会合で大雪に関する心配、懸念の声が高まっています。

その反面、関係省庁に問合せをしてみると「現在進行形である」「被害拡大の懸念がある」「被害の状況がすべて把握できていない」といった応答に歯がゆさを感じます。

私も富山県、福井県へお邪魔し、雪害現場を視察させていただきました。雪がだいぶ溶けたとのことでしたが、それでも積雪は1メートルほど。氷層になっているのが4～50センチほど確認できました。本当に厳しい現実を目の当たりにしました。

全国各地で対策本部などが立ち上がり、情報収集に全力を上げていますが、どんな小さな情報でも集約していただき、対応する関係省庁などにお繋ぎいただくようお願いします。私も声をあげていきます。

【農林水産関係の法案出揃う】

今回の通常国会で審議が予定されている法案審議に先立ち、党の農林部会などの関係会合では、関係省庁からの法案概要や条文案などの説明が進んでいます。

提出法案の多くが、衆議院での審議を経てからになりますので、参議院では4月から会期末の6月中旬にかけて集中的に審議がされます。

特に、検討段階から農薬取締法改正に関する事項については、様々な意見がでています。何よりも優先されるべきは、生産される農産物の安全・安心の確保です。

改正案の内容では、現行の「再登録」に代えて、欧米で導入実施されている「再評価制度」を採用することで、農薬の安全性を一層確保することができるとします。また、ジェネリック農薬の申請を簡素化するなど、登録審査を見直すとしています。

しかしながら、再評価制度への導入に関する必要性、制度改正に関して安全性が向上するのかどうかについては、まだまだ議論が必要ではないかと思います。登録審査の見直しに関しても同様です。

生産現場や関係者の意見も十分に踏まえながら議論が深まるよう努力します。

▲再生可能エネルギーに関して質問

全国・県農政連推薦

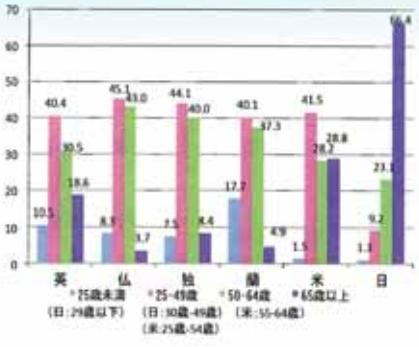
参議院議員山田としおの 農政問題に斬り込む

「農業者は皆、サラリーマンになってしまうのだろうか」

【わが国は、家族農業を、地域の安定を、維持してゆけるのか】

今、わが国の農業の最大の課題は、担い手の著しい高齢化と、基幹的農業従事者の減少である。その状況を顕著に示したものが、左図の「各国の農業従事者の年齢構成」である。

【各国の農業従事者の年齢構成】



出典：農林水産省資料

これまで社会の雰囲気として、農業を軽視し、所得安定の仕組みも貧弱で、高齢者の年金受給での引退や、経営移譲の形をつくれないままで推移してきた。

このことをどう考えるか。家族農業が消えて、大規模企業経営が生産・流通・販売を担い、地域を占有し、系列店舗で販売品を独占販売する。農業者は雇用されてサラリーマンとなる。こんな日本で、家族の形も地域も農地も守れるのだろうか。

地域において、農地を守り、地域社会を支え、自然を守り、農業生産と所得実現をはかる、そうした農業者をしっかり守る、このことが我が国の存立の基本だ。このことに確信をもって政策を打ち出そうではないか。

【農業を生業とすることで、家族も地域も国も守れるのだ】

「農業を生業とする」そこに、家族も生活も人生もかける。

ところが、企業等が別のねらいで、本業を宣伝するため、いかにも社会的貢献を行っている、ということのために農業に進出するのはやりきれない。場合によれば、仕入れ価格をけん制するため、自らの農園からの出荷品を競争的に店舗等で販売している、という形もあるのだと思う。

こういう事態について、政策推進者の理念が必要なんだと思う。自由競争といえども、そこに、地域や国家のあり方を踏まえた理念や国家観が無ければならない。

安倍総理は、総選挙で勝利し政権を奪還した後の平成25年の党大会で、「息をのむほど美しい田園風景、世界に誇るべき国柄、伝統、農村文化、私は日本の農業と食を守ります」「強欲を原動力とする市場主義経済の道をとってはならない、道義を重んじ、真の豊かさを知る瑞穂の国の資本主義を目指します」とおっしゃっていた。

総理には、この言葉を基本に置いた政策の推進を行ってほしい。そのため、規制改革推進会議の運営やテーマや委員の選任に気を配るべきなのです。

▲ODA特別委員長として議事を進行

ガンバッテます！

境　浩之さん
JAたまな
中央集荷センタートマト部会長
園芸部連絡協議会会長

玉名市横島町で、丸トマトと米の栽培をされている境浩之さんを取材しました。

境さんのご家族は、両親、奥様、息子夫婦、孫4人、四世代10人家族です。

●就農について

境さんは、地元の農業高校卒業後、玉名市の企業へ就職。男4人兄弟の次男だった境さんは、幼い頃から「自分が跡取り」と思っており、結婚後、お子さんが小学校一年生になる年に、10年勤めた会社を辞め、29才で就農されています。もともと、ご両親がトマト農家であったことから、休日には実家の手伝いをされていて、就農については、何の抵抗もなかったとのことです。

現在、ご夫婦2人と息子さん、雇用者1人の4人で、ハウスによる丸トマト（70アール）と水田（90アール）の栽培をされています。忙しいときは、境さんのご両親もお手伝いされているとのことです。

●農業の喜びと今後の抱負

「作業が終わり、結果が見えた時は嬉しいです。金銭ではなく、収穫量が多かった時は、農業の喜びを実感します。

今後は、自分もまだ若いので、規模を拡大したいという思いがあります。ただ、後継者である息子が、どういうスタイルの農業をするかわからないので、押し付けはしたくないです。」

●トマトについてのアピール

「トマトの美味しさをもっと知ってもらいたいです。特に、トマトの食べ方はたくさんあり、生で食べるのが一番ですが、生だけでなく加熱調理することにより、新しい美味しさを発見できます。皆さんも、ぜひ、トマト料理を手作りして食べてください。」

●最後に一言

JAたまなの農業者は元気が良く後継者もたくさんいます。日本の農業は、JAたまなが引っ張るつもりで頑張りましょう。

そして、JAたまなのトマトを全国へ!!

好きな言葉は「精一杯」。趣味は、アルコール付きの反省会。また、ソフトボールやバレーボールなどスポーツ好きな境さんでした。

出荷者：御舩　友子さん
直売所：「サンサンうきっ子宇城彩館」
紹介JA：JA熊本うき

▲御舩さんと、お孫さんの晃弘くん（右）と伶南ちゃん（中央）

宇城市不知火町で温州みかん、不知火柑、ぶどうなどを栽培されている御舩友子さんを取材しました。

御舩さんのご家族は、旦那様と旦那様のお母様、長男夫婦とそのお子さん2人、長女とそのお子さん一人の総勢9人の大家族です。

●美里町から不知火町松合へ

御舩さんは、熊本市内で和裁の勉強を4年され、3年間和裁の指導をされていました。それから御縁があり、実のお姉さんから旦那様を紹介され、美里町から不知火町松合へ嫁がれました。

嫁いだときはまだ、通信大学で学ばれており、旦那様の力も借りて教員免許を取得、卒業されました。結婚当初は、子育てが主で、正式に農業を始めたのは、3人の子育てに手が掛からなくなってからとのこと。

現在は旦那様と息子さんの3人で、温州みかん（50アール）、不知火柑（100アール）、巨峰やシャインマスカットなどのぶどう（50アール）を栽培されています。

●直売所への出荷について

「設立当初から出荷しています。店長はじめ、スタッフのみなさんは親切で、時にはアドバイスをいただいたりと出荷しやすいところに良さを感じます。また、全ての商品が新鮮で味が良ければ売れるところに、やりがいを感じます。何より、出荷者が多いため、いろんな仲間がいて楽しいです。」

●今後の目標

宇城彩館全体の売り上げが上がるように良い品を作っていきたいです。「美味しいっ！」とお客さんに言ってもらえることを目標に、頑張ります!!

●好きなことは

「消防団での活動です。

でも、一番好きなのは宇城市と広域連合の婚活相談員の仕事です。イベントを企画したり、合コンの設定をしたり楽しいです。皆さんお困りの際は、是非相談に来てくださいね。」

●最後に一言

親の言う事を、しっかり聞いて結婚してください。あなたの幸せを、一番に考えてくれるのは、家族ですよ。

韓流ドラマとイケメンが大好きな、バイタリティあふれる優しい御舩さんでした。

JA 中央会

自己改革の着実な実践と組合員の理解促進を

～JAグループ熊本自己改革推進会議～

JA熊本中央会は2月23日、「JAグループ熊本自己改革推進会議」を開催し、県内JA・連合会の常勤役員ら約80名が参加しました。

政府主導の農協改革が進むなか、JAの自己改革の着実な実践とあわせて、組合員への理解促進をさらに加速化させることを確認しました。

JA全中の比嘉政浩専務より情勢報告として、「今後の農協改革は世論が政策決定を左右する。JAグループとして農協改革集中推進期間の期限である平成31年5月までにJA自己改革の実践を徹底するとともに全国1千万人の組合員調査で高い評価を獲得することが重要である。また准組合員制度に関して、これまで以上に組合員として明確に位置づけることが必要である。」と話しました。

また、JA熊本中央会の山本浩二常務がJAグループ熊本の自己改革として、組合員試行調査への対応、戦略的広報活動の実施等について報告を行いました。

JA熊本経済連の加来誠一会長は「今後は組合員等に対して、自己改革の取り組みをいかに周知させていくかが重要であり、本県においてもあらゆる媒体を有効に活用しながら広報活動を展開していきたい」と挨拶しました。

▲報告を行うJA熊本中央会の山本常務（写真奥）

JA 経済連

平成29年度　農機実販推進運動成果大会

～農機担当職員の活性化図る～

熊本県JA農機自動車技術指導士会とJA熊本経済連は熊本市内のホテルで平成29年度農機実販推進運動成果大会を開催し、JA役職員のほかメーカー担当者などおよそ170名が出席しました。

推進運動では、農家組合員への恒常的な訪問による顧客満足度の向上とシェア拡大、担当職員の活性化を図ることを目指しています。

挨拶で経済連の加来誠一会長は、「農業機械は農業の省力化や効率化に大きく貢献してきた。近年は技術の進歩によりICT（情報通信技術）やGPS（全地球測位システム）などを活用して、精度の高い作業ができるようになった」とした上で、「取り扱いには、知識とレベルの高い技術が必要。今後も農機事業を通じ、組合員の負託に応えていただきたい」と述べました。

同日は推進部門で6センターと16名、修理サービス部門で6センターと11名が表彰されました。

▼各部門の成績上位者は次の通りです

【推進部門】

▽センター賞1位＝中央農機センター（JAくま）

▽センター躍進賞1位＝南部農機センター（JA熊本市）

▽個人賞

トラクター賞1位＝森政博（JA鹿本）

コンバイン賞1位＝平松雅章（JAやつしろ）

田植機賞1位＝永野和敏（JAやつしろ）

作業機賞1位＝江里口勝也（JAくま）

▽新人賞1位＝竹島大地（JAやつしろ）

【修理サービス部門】

▽センター賞1位＝農機サービスセンター（JAくま）

▽センター躍進賞1位＝上島農機センター（JAあまくさ）

▽個人賞　各地区11名

JA 共済連

JA共済協賛 第35回熊日郡市対抗女子駅伝

1月28日（日）JA共済協賛の「第35回熊日郡市対抗女子駅伝」が行われました。熊本市上通町のびぷれす熊日会館前を発着点に7区間28．4㎞19チームが出場して行われ、熊本市（1時間35分5秒）が最終区で逆転し、4年連続14度目の優勝を果たしました。2位には宇城市（1時間35分42秒）、3位には山鹿市（1時間38分18秒）が入りました。

当日は、多くの地域の方が沿道に足を運び、温かい応援と選手たちのタスキをつなぐ熱い思いが伝わり、熊本に元気を与えるすばらしいレースとなりました。

本大会は、県内の女子長距離選手の育成と競技人口の底辺拡大を目的に、昭和58年から毎年開催され、今年で35回目を迎える伝統ある大会です。

JA共済は、これからも地域に密着した活動を展開し、組合員・利用者へのNo.1の安心と満足の提供を目指していきます。

▲スタート号砲を行う田上本部長

▲びぷれす熊日会館前をスタートする選手達

▲1位でゴールテープを切る熊本市の矢田みくに選手（ルーテル学院3年）

【結果発表】
優勝：熊本市
2位：宇城市
3位：山鹿市

JA共済くまもとマスコット 杏ちゃん

JA共済くまもとマスコット 仁くん

JA 厚生連

骨粗鬆症について

骨粗鬆症とは、骨のカルシウム量が減り、もろくなって骨折しやすくなる病気です。骨量は二十代～三十代に最大になり、その後徐々に減っていきます。骨は絶えず新陳代謝を繰り返し、古い骨は壊されて（骨吸収）、新しい骨に作り替えられています（骨形成）。しかし、加齢やカルシウム不足、運動不足、過度のダイエットなどで骨吸収が骨形成を上回ると、骨量が足りなくなり骨粗鬆症になります。特に女性は閉経によって女性ホルモン分泌が減ることで骨量も減少する傾向にあります。

予防のためには、若年時から骨の健康を意識した生活習慣の改善を心掛けましょう。

【予防】

①食生活

日本人のカルシウム摂取量は、骨粗鬆症の予防と治療に必要な摂取量に対して、どの年代でも不足しています。

食事で大切なことは、さまざまな栄養素をバランスよく摂ることです。特に、カルシウム、ビタミンD、ビタミンKなど骨の健康に大切な栄養素を積極的に摂りましょう。一方でリンや食塩など、カルシウムの吸収を妨げる栄養素や、骨の形成を抑えるカフェインの過剰摂取にも注意が必要です。

カルシウムは乳製品や大豆製品、小魚、緑黄色野菜、ごまなどに多く含まれています。ただし乳製品には乳脂肪分や塩分を多く含むものもあるので、コレステロール値が高い方や高血圧の方は牛乳を低脂肪乳にかえたり、チーズを食べ過ぎないなどの注意が必要です。

ビタミンDはカルシウムの腸での吸収を助ける働きがあり、カルシウムと一緒に摂ると効果的です。魚やきのこ、乾物に多く含まれています。

ビタミンKは骨を作る働きを促します。納豆や緑黄色野菜などに多く含まれます。和食中心の食事をしていると自然に補給できます。

②運動

運動に慣れていない人や高齢者が急に激しい運動をすると、ケガや事故につながるおそれがあります。骨粗鬆症の予防をはじめ、健康づくりのためには、適度な運動を継続的に行うことが効果的です。自分に合うものをコツコツ続けましょう。

【最後に】

骨粗鬆症は早期に気付くことができれば骨量の減少を防ぐことも可能です。

そのためにも定期的に骨粗鬆症検診を受けるようにしましょう。

あとがき

3月の卒業式、4月の入学式や入組（会、社）式。涙と笑顔が混在する季節ですね。

卒業式の前に入試があり、あっけらんとしている子の横で、ドキドキしている親がいます。私立の学校は合格しているものの、やはり親としては金銭面で公立へと考えてしまいます。出来た子をもつ親御さんには味わえないスリルを、なんともまぁ良く味あわせてくれる姫。ほんと、小さい頃から、大丈夫なの？と考えさせられることが多く・・・忘れ物をするのは当たり前、電信柱にぶつかって泣くという、漫画かと思うような場面も多々。そして、もっと強烈でパワフルな姫が、下に控えています。

子育てしながら健康を考えるお年頃。数年前に大病を患い、また昨年も、本人が気づかぬうちに、脳梗塞の一歩手前で奇跡的に発見され、何事も無かったかのように今生きています。何があるか分からない、この世の中。健康診断は、定期的に必ず受けましょう。できれば、内視鏡検査や超音波検査も。共済への加入、大丈夫ですか？

あなたの大切な、子どもたちのために…。

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。

連絡先　熊本県農業者政治連盟
JA熊本県会館10階
（電　話）096-328-1284
（FAX）096-326-5807